

特集 2 主要都市のアメニティ特性

佐賀市のアメニティ特性

佐賀大学理工学部教授 高田 弘

アメニティとか環境という言葉は非常に広汎な意味を持っており、その対策も様々であるが、ここでは都市計画とか都市工学という面から佐賀市のアメニティ特性を考察し、今後の方向や課題についても若干の私見を述べてみたいと思う。

1. 都市の構成とアメニティ

最近、都市をその機能や効率という面からだけでなく、住み易さや環境の快適さという点から見直し、真の豊かさを都市生活の中に求めようとする努力が全国各都市で進められており、アメニティタウンとか魅力的都市、あるいは水と緑の街づくり等という言葉が各地で聞かれるようになった。

もともと都市の魅力や快適さというのは、その街に住む人々の考え方や生きざま、あるいは歴史や伝統に根ざすものが多いと思われるが、特に都市環境とか都市構成という面から見ると次の3点によって大きく左右されるものといえよう。

第1は地形、気象、植生等の自然条件である。穏やかな気候と四季折々の季節変化、あるいは清流河川や紺碧の海岸、緑豊かな山や丘の存在は快適な都市環境にとって必須の要件であり、古来人間はそのような場所を選んで都市を形成してきたことは明らかである。

第2はその都市の土地の使われ方、つまり土地利用がどうかということである。住宅地、

商業地、工業地あるいは業務用地等が空地や農地と混合してバランスよく配置され、利用されている都市は当然住み易いであろうし、都市型公害や産業公害に汚染されることなく、便利で魅力的な生活環境が確保されておれば、良好な土地利用ということができる。

第3は都市施設の整備状況である。道路、上下水道、情報、通信等のいわゆる都市基盤施設はもちろん、公園や教育文化施設、運動レクリエーション施設等はその質や個性とも相まって、都市の有力なアメニティ素材となるものと思われる。

以上の3点はお互いに相反する要素を多分に含んでいるのでこれらをすべて完全に満足することは到底不可能であろうが、魅力ある都市形態、あるいは快適な生活のできる都市構造というものはこれらの点ができるだけ調和し、しかも個性的に構成されたものということができる。

2. 佐賀市の特色とアメニティ要素

佐賀市は元来、鍋島氏の居城であった佐賀城を中心として発達した城下町であるが、佐賀平野の中央に造られた平城であるため、町そのものも極めて平板で、山、川、海等の自然的変化に乏しい。

それでも、藩政のころには筑後川と結ぶ川港として栄えた今宿町付近、城の北を東西に走る長崎街道、さらには街道と城の間をうっ

そうと茂った松原等が城内地区とともに町の骨格を形成し、風格ある都市環境を保っていたものと思われる。

しかし、明治以後これらの都市構造は次第に変容し、最近では城内地区の住宅地化が進むとともに道路網の発達にもなって新しい



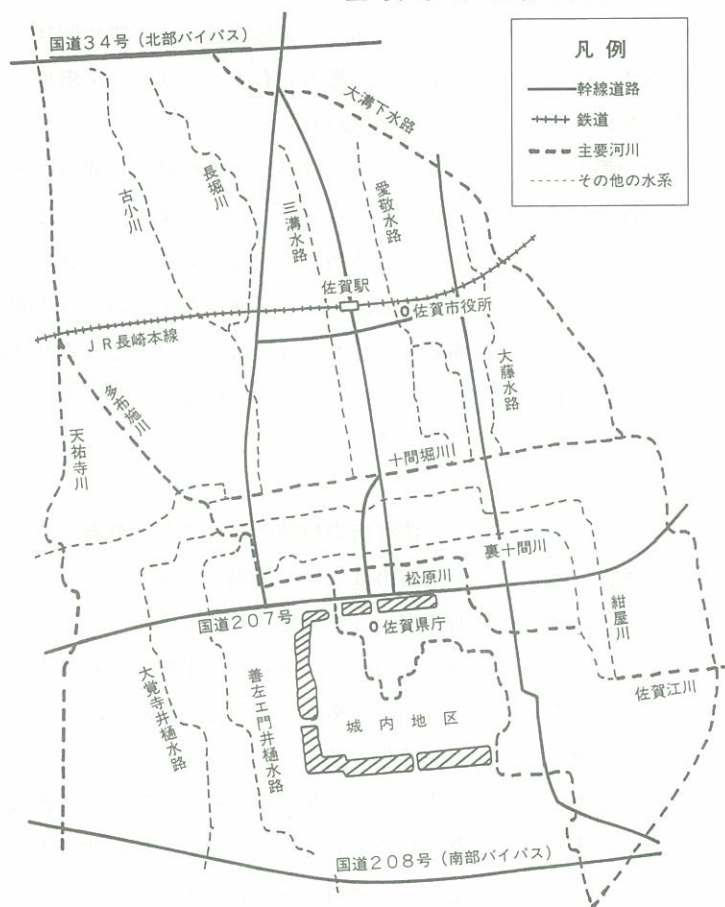
整備された多布施川周辺

都市空間が形成されつつある。

佐賀市のアメニティ要素としてまず第1に挙げるべき自然的要素は楠の木に代表される緑と市内を網の目のように覆う水路（クリーク）であろう。若楠国体といわれたように、城内地区各所に見られる楠の大木は歴史の重みを感じさせるだけでなく、町を取り巻く広大な田んぼとともに田園都市としての佐賀市のイメージシンボルともなっている。

また、東を城原川、西を嘉瀬川で区切られた佐賀市域には多布施川水系を初めとして大小無数の水路があり、幅2m以上のものだけでも全市で約1900kmに達する。低平地で水害を受けやすかった佐賀市にとって、これらの

主要水系図(佐賀市)



水路は出水時の湛水域として重要であるのみならず、農業用水として、また市街地では飲料水や防火、洗濯用水として市民の生活に定着していたものと思われる。

しかし、都市化が進むとともに水質の汚濁、流量の低下、ゴミや泥土の堆積等によって自然の生態系はゆがめられ、折角の水辺環境がアメニティ要素として生かされないまま今日に至っている。

次に土地利用と都市施設の面から佐賀市を分析して見ると、まず市街化区域の線引きに

伴なって、近年、北西部へのスプロールが著しく、城内地区や松原地区を中心とする都市構造が崩れつつあると同時に、幹線道路のみに依存した混在形態の土地利用が無計画に出現しつつあることはアメニティの観点からも好ましいことではない。

また都市施設としては城内公園、神野公園、森林公園、あるいは北部山麓の金立自然公園等の外、城内地区にある博物館や美術館、建設計画の進んでいる総合文化会館等の都市施設が逐次整備され、進行中の下水道や街路の整備と相まって住み良い環境やまちづくりの努力が続けられている。

3. アメニティへの取り組み

60年に佐賀市が実施した市民意識調査の結果によると回答者の約60%が住み易いと答えているが、多くの人がある理由として田んぼに囲まれ、どこへでも自転車で行ける田園都市であることを挙げている。

また是非よその人に見せたい佐賀市のシンボルとして何を考えるかという質問に対しては、佐賀城跡と城掘、神野公園、多布施川河畔公園、金立自然公園等を挙げているが、その外にクレークや楠の木、あるいは筑後地域独特のかささぎ（カチガラス）を挙げた人も多いことは大変興味深く、アメニティに対する市民意識の一面を示すものといえることができる。

58年に策定された佐賀市総合計画においても「活気溢れる水と緑の文化都市」を目標に、魅力的で住みよいまちづくりの推進を掲げている。すなわち郷土の良さを再認識し、積極的な市民参加によってミニ東京ではない佐賀ならではの快適都市を実現させようとするも

のである。

このような基本線に沿って61年には佐賀市快適環境整備計画（佐賀新風土づくり計画）が策定され、まちづくりのテーマとして次の3点を挙げている。

- (1) 水と緑と歴史を皆の手で皆のものに
- (2) 住み心地良い近辺の環境を
- (3) 楽しさのネットワークづくりを

さらに新風土づくりの手引としてこれらのテーマに沿った計画や運動の指針がかなり具体的に示されており、佐賀市の新しいアメニティタウン形成に関する基本的マニュアルといえることができる。

このような動きに連動してこれまでに策定あるいは実施中の主な個別計画としては佐賀城周辺地区の整備、多布施川及び水網の再生、長崎街道の保存に関する計画等があり、自然と歴史の再生と活用によって魅力的都市への脱皮を図っている。

その他、最近では駅前から県庁に至る道路を佐賀市のシンボル道路として整備する計画や九州横断自動車道の開通に伴って北部山麓地域一帯を自然公園として整備する計画（フリーウェイオアシス計画）等が意欲的に進められている。

これらを支える市民運動もまた最近極めて活発になりつつあり、特に河川浄化を旗印に結成された水対策市民会議によって精力的に推進されている「川をきれいにする運動」は多くの市民の協力を得て多大の成果を上げつつある。

また花のみちづくり運動や長崎街道歩こう会等、多彩な市民運動がいろいろな団体の主導によって繰り広げられており、中でも青年会議所のメンバーによるこの種の運動やキャンペーンは最も意欲的で、明日の佐賀市を夢

見る若者の息吹きが力強く感じられる。

4. 水網都市佐賀の実現を目指して

今後、佐賀市のアメニティをますます高め、快適な環境を創り出してゆくためにはどうすればよいであろうか？ 必ずしも自然条件に恵まれていない佐賀市の場合、まず埋もれた貴重な自然的要素を最大限に再生し、活用することである。そこで考えられることは他に類を見ないほど発達したクリーク網に清流を取り戻し、都市の骨格とすることではなかろうか？

そのためには農業用水との調整、治水能力との整合を図ることによって流量を確保するとともに、下水道の整備、生活用水やゴミの投棄による水質汚濁の防止を徹底することによって水流の浄化を図る必要がある。

また都市計画全体を見直し、水路と道と緑のネットワークを再構築して水辺環境を市民生活の中に取り戻すため、水路沿線の道路(特に遊歩道)の整備を行うとともに、植樹、植栽によって快適な沿川環境と魅力的な景観の形成を急がねばならない。

さらにこれらと併せて護岸や川底の改良、付帯施設の整備を推進すれば、親しみ易い水辺、いわゆる親水性に富んだ都市空間を創出することが可能である。

このような水路ネットワークに見合ったいろいろなイベントを意欲的に、またユニークな方法で振興すれば、水と緑を中心としたアメニティタウン佐賀の活性化や観光興隆につながるばかりでなく、市民生活にとっても真に住み易い環境を再生確保することができるものと思われる。

最後に一言付け加えておきたい。

最近、金あまりとか内需拡大とか盛んに喧

伝されているが、経済大国といわれながら庶民の暮らしとしてはあまり豊かさの実感が無いのも事実である。これは飽衣飽食の生活に比較して住宅や、生活環境、あるいは都市環境の整備が遅れ、あまりにも理想的な都市像とかけ離れているためであろう。

このような矛盾を解消し、真に豊かな市民生活を実現するためにも、いまこそそれらの資金を都市基盤や都市環境の整備に重点的に投入して、計画的な都市改造を強力に進めるべき時ではなかろうか。

諸外国の都市に比べてあまりにも貧弱な都市住民の居住環境を改善し、重厚で地についたアメニティタウンとして後世に残すことは現代人の責務であるといえよう。

今後、アメニティや環境改善を柱とした都市政策が強力に展開されること期待してやまない。

著者略歴

氏名：Hiroshi Takata

学歴：九州大学工学部土木工学学科 S22卒業
工学博士

職歴：佐賀大学教授

理工学部建設工学科

著書・研究例等：「住民意識を考慮した都市環境
評価手法について」佐賀大学理工学部集報
Vol16, No 1, 1987

「地方都市における住宅立地と道路網の整備
に関する一考察」都市計画学会論文集
No20, 1985

委員：佐賀県快適環境整備計画策定委員会会長
佐賀県土地利用審査会会長

運輸省地方交通審議会佐賀部会長

その他多数